

# 昭和51年度 和歌山県名匠

## 【<sup>ばん</sup> <sup>がさ</sup> 番傘づくり】

## <sup>かた</sup> <sup>ぎり</sup> <sup>じゅん</sup> <sup>の</sup> <sup>すけ</sup> 片桐順之助

【現住所】海南市

【生年】明治30年

### 職歴

父の代からの番傘づくりを受け継いで、60余年紀州番傘をつくり続けてきた。

### 業績の概要

徳川城下町の浪人が番傘づくりの手内職をしたことが、紀州番傘を発展させたと伝えられ、最盛期には200軒近くの業者があり、年産150万本を製作したといわれている。

しかし、今では片桐氏父子のただ1軒となり、月産300本余りとなっている。

傘づくりの工程は骨<sup>ほね</sup>ためから仕上げまで7工程あるが氏は一番重要な仕上げ作業を行い、色付け、傷見、油、ぬりまる、二番掛けと全くの手仕事ばかりで採算を度外視して海南市の伝統産業を守ってきた。

家業はこの番傘を含めた洋傘の販売で、製品は旅館関係、高野山の寺院、映画・テレビの撮影用に利用されるほか民芸品収集家や外国人等に珍重されている。